

学校教育目標（最上位目標）

多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる
子どもの育成 ～自律と対話～

令和8年度 めざす学校（手段）

＜めざす子ども像＞ ⇒笑顔輝く子ども（成長し続ける子ども）

- 最後までやりとげる子・・・志(夢・目標)を持って努力を重ね続け、公正さを保ち、相手を尊重する子ども
・自分で責任ある決定(当事者意識)ができる ・挑戦できる ・心を開ける ・多様性を認められる
- 自分で考え行動する子・・・自律的・協働的に学習や行動をする子ども
・主体的に意見や提案ができる ・探究できる ・対話する力(ICT活用含)を磨ける ・振り返りができる
・優先順位をつけた時間の管理ができる(生産性の向上)
- 命や体を大切にすること・・・基本的な生活習慣を確立し、健康の保持増進や危機管理能力の向上に努める子ども
・自他ともに肯定できる ・感情をコントロールできる ・情報を収集し、公正な判断ができる

＜めざす学校像＞ ⇒笑顔輝く学校（成長し続ける学校）

- 「チーム力」で課題や行事、毎日の授業に当事者意識をもって取り組む誰一人取り残さない楽しい学校
- 子どもが自分で判断し、決定できる環境のある当事者意識を育てる学校
- 安全で安心して仲間と協働し、自律的に学ぶ学校
- 家庭・地域と豊かにつながる学校

＜めざす教師像＞ ⇒笑顔輝く先生（成長し続ける先生）

- 人権感覚に富み、子どもと保護者から信頼され、当事者意識をもって常に自己変革に挑戦する教師
- 子どもに寄り添い、ファシリテーション力があり、子どもの参加度の高い授業をめざして学び続ける教師
- ネットワーク・フットワーク・チームワーク(3ワーク)で迅速・確実・丁寧に対応できる教師

学校教育目標を実現するスローガン（手段）

みんなちがっていい（多様性）自分で決める（自律）違いを対話で分かり合う（対話）

(1) 『多様性』をめざして

子ども一人ひとりの個性や特性に寄り添い、指導・支援していくとともに、少数者を排除せず、多様性を当然のこととして認め合える子どもを育てる。

目標に向かって挑戦し、主体的に仲間と協働し、人権感覚を磨き合いながら、多様性を認め合える社会に変革しようとして提案する子どもを育てる。

(2) 『自律』をめざして ※自律・・・他からの支配・強制などを受けずに、自分自身で立てた規範(ルール)に従って行動することができる性質

激動の社会においても豊かな人生を歩むために、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもを育てる。

自分の意見を表現したり、発表したりしたくなる子どもを育てる。

(3) 『対話』をめざして

お互いを尊重する豊かなつながりを通して、高めあう集団を構築するために、見方・考え方が違っていても、根拠を持った対話によって分かり合おうとする子どもを育てる。

学校教育目標を実現する 具体的方針・内容（手段）

(1) 当事者意識（自律）を持った学習者の育成

- * 解のあるテストで100点をめざすことを目標にするのではなく、解のない問題を解く喜びを感じる子どもを育成する。【自律の育成・評定に対する従来の発想の転換・探究力の育成】
- * 分からないことを分かるようにしたいという自律的な学習意欲の涵養に努める。【自律の育成】
- * 今後、激動する社会を自律的・協働的に生き抜くために、創造力・対話力・問題解決力・生産性を高める意識の育成(努力を成長に寄与することに絞る)を推進する。【非認知能力の育成】
- * 五感を働かせる体験や活動を重視し、今日的課題に取り組む。【社会参画の促進、非認知能力の育成】
- * 話し合い活動やお互いを承認し合える集団作り、当事者意識の育成を通して、コミュニケーション力（メディア・リテラシー含）を涵養する。【参加度の高い授業の創造】
- * 一人ひとりがその場にふさわしい表現ができる力を育成し、学びあうつながりを太くする。表現方法については、多様性尊重の観点から、多様な手段を認める。【参加度の高い授業の創造】
- * 子どもが学習する際に生じる支障や障害、特性の低減に努め、個別最適な学習環境を子どもと相談の上、提供する。【参加度の高い授業づくり】
- * あらゆる機会をとらえて子ども用タブレット端末の活用技能を習得させるとともに、当事者意識育成の手段として個別最適化・学習の個性化をめざした授業をさらに充実する。【参加度の高い授業づくり・現代的な学習技能等の育成】
- * 保護者や地域と連携を図りながら、自律した学習を推進する。【自律の育成】

(2) 豊かな人生を送るための態度やスキルの育成

- * 子ども一人ひとりが夢や目標を持てるよう、ジェンダー・キャリア・多文化共生・平和教育の充実を図るとともに、常に人生を豊かにするための自己変革に挑戦する態度とやり抜く力を習得させる。【自己変革への継続した挑戦・非認知能力の育成】
- * 多様性重視の観点から、採決に際しては、対話を重視し、少数意見の排除とならないように、多数決で決めない。「心を1つに」「だれとでもなかよくする」を求めず、むしろトラブルを避けるスキルの育成に注力する。【対話とトラブル未然防止スキルの重視】
- * 子どもが多様な教員（専科指導）とよりよい関係を結ぶ中で、子ども一人一人の良さを引き出せるようにチームとして支援していく。【チームとしての指導支援の推進】
- * すべきことやしたいことをリストアップし、優先順位をつけた上で、時間の管理ができる。【自律】
- * トラブル発生は子どもの成長のチャンスととらえ、「3つの言葉がけ」（どうしたの？君はどうしたいの？何を支援してほしいの？）により、自己決定を支援する。【当事者意識の育成】
- * 子ども同士の意見の対立は当然起こるものとしてとらえ、対話を重視し「感情のコントロール」のスキルの育成を支援する。【感情のコントロール】
- * カウンセラーを活用し相談体制を確立するとともに、いじめ・不登校等への取組は、子どもの成長を念頭に置き、自己決定（自律）ができるよう支援する。【自律・当事者意識の育成】
- * 一人ひとりの異なる考えや多様性を認め合い、すべての子どもに居場所があり、高め合う集団を創造する。【互いに承認し合える子どもたちと教師集団、参加度の高い授業の創造】
- * ルールは最低限にし、ルールで縛るのではなく、何事においても根拠を吟味した適切な判断力を育成する。【当事者意識・自律の育成】
- * 礼節・忍耐・協力といった従来大切にしてきた価値観を求めない。【多様性・自律の育成】

(3) 健康な心身の育成

- * 身体をしっかりと動かす習慣を身につけさせ、心身の健やかな成長につなげる。【成長の実感】
- * 健康的な生活習慣の確立や安全教育の充実により、健康増進及び危機・時間管理などに対する自己管理能力の向上につなげる。【当事者意識・自律の育成】
- * 食育、早寝、早起き、朝ご飯、メディア活用ルールなど（家での7つの約束）を身につける。【当事者意識・自律の育成】
- * 安全（危機管理）教育を推進し、多様で豊かな人生を送ることができるよう態度を身につける。【豊かな人生】

(4)地域協働型教育の推進

- * 地域の実態や学校の特色に対応した教育活動を実践し、積極的に発信する。
- * 学校評価及び「学校協議会議」、学校関係者評価を実施し、学校教育活動の成果を検証するとともに、現状と課題について把握し、組織的に学校運営を改善する。
- * 家庭、地域へ積極的に情報発信を行い、コミュニケーションを深化させる。
- * 教育活動を通して地域に貢献し、地域との信頼関係を豊かなものにする。
- * 子どもに社会体育的行事、活動等に積極的に参加するように啓発する。

【令和8年度 福泉東小 行動指針】

- ① 全ての教育活動は、最上位目標「多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成 ～自律と対話～」達成の手段である
- ② 「情報の共有化」と「迅速・確実・丁寧な対応と報告」
- ③ 学級だけではなく、「チーム 福泉東」として意識し指導・行動する。